

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1154
施設名	野のゆり保育園
施設所在地	目黒区大橋2-15-12
法人名	社会福祉法人双葉の園

年間テーマ 表現

1. 活動のテーマ

<テーマ>

6月～9月 表現（出会いと気づき） 出会いを楽しむ。様々な素材に触れたり、ものを作ったりすることを通して自分の興味や関心に基づく遊びを遊び込んだり、作ったものなどをきっかけに友だちと遊んだり関わることを楽しむ。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

- ・一人でじっくり向き合える素材、その素材それぞれの感触や面白さを楽しむ。
- ・素材の使い方を子ども自らが発見する。

2. 活動スケジュール

- ・活動…月2～4回の木曜日9：30～12：00頃まで
- ・事前打ち合わせ…毎週火曜日17：30～18：00 材料や環境設定について
- ・毎回活動後に講師と幼児クラス担当保育者が振り返る…活動日の14：00～14：30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

毎回活動内容により、テーブルの配置、材料の置き方などの打ち合わせをする。

素材や道具…ポリ袋 新聞紙 紙粘土 はな紙 紙テープ 画用紙 模造紙 でんぷんのり
スポンジ パステル ポスターカラー 筆 透明カップ プラスチックスプーン スポイト
カラーセロハン モール トイレットペーパー 豆乳 リボン 石鹼 食紅 洗濯のり
クエン酸 はさみ ホッチキス 割ピン ボンド 穴あけパンチ 牛乳パック 折り紙 油性ペン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・花紙、紙テープを水で溶いたでんぶん糊を使って貼ったり丸めたりする ・チョークを削った色の粉にシャボン液を加え色付のシャボン玉を作る ・発泡スチロールトレイや牛乳パックなどに絵を描いたり、素材を組み合わせプールやタライに浮かせる ・食紅で色を付けた寒天をなでたり握ったり型抜きをする ・食紅の色水を白い羊毛糸にふりかけて毛糸を染める ・藍の葉、ハーブ、野菜の皮、茶葉を使い色水を作る ・片栗粉に液体石鹼や固形石鹼を削った粉を混ぜて石鹼粘土を作る

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・はじめて参加する年少組に気遣いながらもダイナミックに楽しむ。 ・友だちの姿に影響され、次々に“やってみたい”気持ちが強まり、手や顔に塗って楽しむ。 ・シャボン玉ではアルミホイルの上でシャボン液を混ぜたり吹いたりしながら、泡を見て「ハチの巣みたい」と言う。 ・トレイに油性ペンで描く時に、キュッキュッと音がすると「ネズミみたい」と言う。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・はじめは不参加だったが、人数が少なくなってから参加する子ども達は、じっくりと取り組んでいた。大人数が苦手な子は様子を見ながら参加のタイミングを見計らっていた。
・毛糸を染める活動では出来上がった色付の毛糸を食材に見立て、友だちともやり取りを楽しんでいた。その後もごっこ遊びの中で使用していた。今後も形や色からの見立てを楽しみ、友だちと交換したり、つないだりして一緒に作る楽しさを感じてほしいと思う。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

10月～12月 表現（想像と共感） 様々な素材や道具に触れ自然物との関わりを深める。日々の生活の中で体験を通して気づいたり、発見したりすることから、想像力を広げ表現し他者に伝える。 他児の発言や発見したことなどを受け止める。 ゲーム性のある遊びを楽しむ。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
・自然の形、偶然にできた形から見立てる。
・何かを作ったりごっこ遊びに発展したり、友だちと組み合わせたりして様々な遊び方をする。

2. 活動スケジュール

・活動…月2～4回の木曜日9：30～12：00頃まで
・事前打ち合わせ…毎週火曜日17：30～18：00 材料や環境設定について
・毎回活動後に講師と幼児クラス担当保育者が振り返る…活動日の14：00～14：30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
毎回活動内容により、テーブルの配置、材料の置き方などの打ち合わせをする。
素材や道具…木材 金槌 空き箱などのリサイクル素材 ヨーグルトやゼリーの空き箱 ペットボトル ペットボトルキャップ ラップ芯 発泡トレイ トイレットペーパー芯 釘 新聞紙 チラシ 段ボール ラミネートフィルム 不織布 フェルト 裁縫針 布 毛糸 モール リボン カラータイ ビニールテープ ボンド

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・米粉を使って粘土を作る ・紙粘土や液体粘土を作り、そこにチョークや絵の具を混ぜて自分の好きな色を作る ・綿や毛糸をトロトロボンドにつけた後、巻きつけて形を作り固め乾燥させる ・クリップを使い、身近な素材（牛乳パック、紙コップ、空き箱など）と組み合わせ吊るしたり、引っ掛けて動かす ・不織布にリボン、毛糸などを両面テープでくっつけたり、ホッチキスや針を使い縫い合わせバックを作る ・葉っぱや小枝を収集し、ラミネートをする ・ラミネートした物に穴を開けオーナメントやメダルを作る ・収集した葉や小枝、実などを段ボールにつけて壁飾りを作る

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・粘土を作る過程で粉が舞う様子の面白さに気づいたり、「ヨーグルト」「ジェラート」に見立てる ・トロトロ粘土ではしぼり袋に入れ、段ボールに絵を描くと「クジラみたい」と言う ・クリップで動かす活動や不織布を使う活動では、電車を思い浮かべ作り始めたり、人形に見立てイメージを膨らませ人形劇が始まる ・ラミネートの活動では、葉をじっくりと観察し、虫が食べて穴が開いていることに気づく ・厚みがあるとラミネートが難しいことにも気づく ・収集した自然物の手触りなどの感触を確かめながら、図鑑で調べる姿もあった



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・年少組は、道具を自分で選んで使う楽しさを感じている様子がみられた。物と物を貼り合わせたり、混ぜたり、感触を楽しんだり、水で溶かしたりと多様な経験をし、やりたいことを直ぐに見つける姿もあった。また自分達でイメージを広げ、やり取りをしながらストーリーを作っていた。そこに集まった者同士のやりとりから発見やゲーム性のある遊びへと広がってほしいと思う。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

1月～3月 表現（共感と協働） 自分の作ったものやイメージ、感じたこと、思ったことを友だちに伝え、イメージを共有する。それぞれの好きなこと、得意なことを一緒に行う協働的な活動。相互に刺激し合い影響し合い自分なりに工夫する。

<テーマの設定理由>

・自ら考えた遊びのルールを共有し、さらに新しい遊びを作り出していき思い思いに楽しむ。

2. 活動スケジュール

- ・活動…月2～4回の木曜日9：30～12：00頃まで
- ・事前打ち合わせ…毎週火曜日17：30～18：00 材料や環境設定について
- ・毎回活動後に講師と幼児クラス担当保育者が振り返る…活動日の14：00～14：30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

毎回活動内容により、テーブルの配置、材料の置き方などの打ち合わせをする。
素材や道具…空き箱などのリサイクル素材 ヨーグルトやゼリーの空き箱 ペットボトル
ペットボトルキャップ ラップ芯 発泡トレイ トイレットペーパー芯 新聞紙 チラシ
段ボール ラミネートフィルム 不織布 フェルト 裁縫針 布 毛糸 モール リボン
カラータイ ビニールテープ ボンド クリップ スズランテープ 針金 割りピン 杉
板 障子紙 カラーセロハン 折り紙 絵の具 油性ペン はさみ ホッチキス
ボンドのり 巻き段ボール すり鉢 すりこぎ ぼかし網 アイロンビーズ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・DVDにペンや丸シールで模様を作ったり、絵を描きコマを作る ・丸型コースター、ペットボトルのキャップなど丸い形を組み合わせる ・紙コップ、紙皿、ストローなどを組み合わせ動かして遊ぶ ・砂や土、鹿沼土、赤玉土を使い色の違いに気付き、何かに見立てる

・紙粘土を使い、形を作ったり色を混ぜたり、ビーズやモールなどを埋め込んで変化を楽しむ ・杉板を土台にして釘を打ち込み、打ち込んだ釘に輪ゴムや毛糸をひっかけ遊ぶ

・物と物を組み合わせ音の鳴る物を作る ・透明テープにキラキラした紙、セロハン紙などを貼り、ベルトやブレーキなどを作る

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・コマ作りでは、年齢によりシールの貼り方に違いがあり、年長児はDVDにバランスよく貼り、陽の光に当てて反射をさせ、虹色に光る様子を楽しむ ・砂の活動では「～したらこうなるだろう」と予測して、水の量を調整しながらトロトロの砂を作る ・トロトロになった砂をたこ焼き、シュークリーム、ホットケーキに見立てたり、乾いた砂をふりかけに見立てる

・砂の種類で色や感触が違うことに気づく ・紙粘土に素材を埋め込む活動では、アイロンビーズを沢山置き、「人だよ」「山に人が登っているんだよ！100人くらいいるよ！」と言う

・木の活動では打ち込んだ釘が板に入っていく感覚を味わいながら、好きな形を描いた線の上に釘を打つ ・透明テープではキラキラベルト、リュックサック、お守りなど思い思いにイメージを膨らませる



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・準備段階から期待感を持ったり、作品作りを通して協力する楽しさを感じていた。感覚の解放から心の開放へ向かい、回を追うごとに積極的に became. また、自分の作品を皆の前で発表したい気持ちも沸き、緊張しながらも心待ちにしている姿もあった。